

令和7年度事業報告

令和7年度は、令和7年3月の第31回理事会の議決を経た事業計画に基づき、研修、橋梁保全に関する調査研究、シンポジウム、講演会、助成、国内外の人材育成支援、広報、橋梁の診断業務及びデータベースの管理運営等を実施した。

1 実施事業等

1-1 道路橋点検に関する技術研修等

(1) 道路橋点検士技術研修会

道路橋の点検を担う技術者の更なる技術力の向上や点検結果の精度・信頼性の確保を図るため、令和7年度に道路橋点検士技術研修会を6回実施した。研修修了者は498名で、平成6年度からの累計開催数は132回、累計修了者は17,347名となった。

また、道路管理者を対象とした道路橋点検技術講習会を1回開催し、35名が受講した。

(2) 道路橋点検士制度

令和3年度以降の道路橋点検士技術研修会を修了した技術者等を対象に、道路橋点検士及び道路橋点検士補の登録申請を受け付けた。申請を審査し、登録した状況は以下のとおりであった。

	登録者数		国土交通省登録資格
	令和7年度	累計	
道路橋点検士	402名	9,782名	平成27年1月登録 (令和7年2月更新)
道路橋点検士補	86名	1,535名	平成28年2月登録 (令和8年2月更新)

また、道路橋点検士及び道路橋点検士補の更新期限（研修を修了した年度の翌年度から4年間）を迎える技術者等を対象とする道路橋点検士更新講習会を開催し、1,256名が受講した。なお、受講者の移動等の負担軽減を図るため、インターネットを活用したオンライン講習にて実施した。

さらに、道路橋点検士委員会が道路橋点検士技術研修会と同等であると認定した他機関が実施する道路橋の点検に関する研修会・講習会の合格者等を対象に、道路橋点検士補検定試験を1回実施し、1名が合格した。当該合格者から道路橋点検士補の申請が行われた。

1-2 自主研究等

(1) 橋梁保全に関する調査研究

①道路橋点検・診断に関わる技術等の蓄積と活用に関する研究

令和 6 年度に定期点検要領が改定されたことを受け、改定後のデータを蓄積できるようにシステムを改修するとともに、改定前から行っているデータ分析を継続し、また新たに蓄積することになったデータを活用した分析もできるようにシステムを改修すべく、必要な対応について検討した。

②道路橋点検・診断の効率化・高度化に向けた新技術の利活用に関する研究

現地における状態把握について支援技術を試行導入し、診断業務における性能評価判断への活用について検討を行った。

また、診断業務において効率化・高度化を図るため、生成 AI の導入について検討を行った。

③海外における橋梁のメンテナンス・保全に関する研究

過去に実施した調査結果も踏まえ、主要な国を対象に、橋梁の特徴、点検の枠組み、メンテナンスの考え方など橋梁保全等に関する現状について調査を行った。

④道路橋の点検等に活用される非破壊調査の理解促進に関する研究

道路橋点検に関わる技術者の非破壊調査に対する理解が深まるよう、一般的な原理の仕組み等をわかりやすく解説する「解説集」を作成・公開するため、有識者を含む委員会を立ち上げ検討を行った。

(2) 海外調査

以下の国際会議等に職員を派遣し、インフラ維持管理技術等に関する情報収集・意見交換、海外の橋梁事業調査を行った。

会議名	日程	会議・視察場所
IABSE Symposium Tokyo 2025	5 月 18 日～5 月 21 日	東京
fib SYMPOSIUM 2025 Antibes	6 月 14 日～6 月 22 日	アンティープ、モンペリエ、パリ(フランス)
IBC 2025	7 月 13 日～7 月 21 日	ピッツバーグ、ニューヨーク(米国)
IABSE Congress Ghent 2025	8 月 26 日～9 月 2 日	アントワープ(ベルギー)、 アムステルダム(オランダ)
17th World Congress	3 月 8 日～3 月 17 日	シャンペリー、パリ(フランス) ローマ、カターニャ(イタリア)

(3) 講演会・セミナーの開催

①橋梁シンポジウム

橋梁に関心のあるすべての方を対象に、講演テーマを「橋梁メンテナンスの最前線」として開催した。早稲田大学教授の秋山充良氏による「鉄筋腐食によ

る構造性能低下をどう予想するか？～機械学習とドローンによる耐荷力測定～」と題した基調講演をはじめ、国土交通省道路局国道・技術課長や、建設コンサルタンツ協会、日本橋梁建設協会、プレストレスト・コンクリート建設業協会の代表者による講演を行った。

会場とライブ配信のハイブリッド方式で開催し、会場参加者は 112 名、配信視聴者は 461 名であった。また、希望者 215 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

②賛助会員特別講演会

賛助会員を対象に、橋梁調査会の取組を紹介するとともに、政策研究大学院大学特別教授の家田仁氏による「転機に立つインフラとその担い手」をテーマとした講演を行った。

会場での対面方式で開催し、参加者は 80 名であった。後日、賛助会員専用ホームページにおいて講演の動画を公開した。

③賛助会員向け橋梁メンテナンスセミナー

賛助会員を対象に、橋梁のメンテナンスに関する情報の提供、実務で生じている課題の共有とその解決を目的として開催した。xROAD 等の最前線の取組に関して、東京大学大学院工学系研究科特任教授の全氏と賛助会員 2 社から話題提供を行い、その後、セミナー参加者によるディスカッションを行った。

会場とライブ配信のハイブリッド方式で開催し、会場参加者は 9 名、配信での参加者は 91 名であった。また、希望者 43 名へ CPD 登録のための受講証明書を発行した。

(4) 助成

橋梁技術に関する研究開発計画を公募し、優秀な計画と認められた次の 3 テーマに対して、その研究開発に要する費用の一部を助成した。

- ・橋梁長寿命化修繕計画における判定区分Ⅳ橋りょう対応のための工学的・社会科学的分析と実践的マネジメント手法の開発（2 ヶ年）
- ・スレンダー鋼 I 桁における木材による補剛の実験的および解析的検討
- ・マクロスケール気象予測モデルを統合した橋桁表面塩分予測システムの開発

(5) 国際協力

JICA が実施する国際協力研修に講師を派遣した。

研 修 名	時 期	研修 参加人数
国別研修 ドミニカ共和国 「建築物耐震性診断能力強化」	7 月 9 日	7 名
課題別研修「橋梁維持管理（技術者向け）コース」	10 月 2 日	16 名

1－3 広報

(1) 広報

機関誌「J_BEC レポート」Vol.21 を刊行した。約 2,000 部印刷し、賛助会員をはじめ関係者へ配布した。

(2) 建設技術フェア等への協力（参加・後援・協賛等）

地方整備局等が主催する建設技術展等のイベントに参加し、橋梁の点検・診断技術や点検支援技術等に関する発表を行うとともに展示を行った。

また、「建設技術フェア 2025 in 中部」や「インフラメンテナンス国民会議 近畿本部フォーラム 2025」等の後援、「橋梁模型コンテスト」等の協賛を行った。

(3) ホームページを活用した広報

ホームページにおいて、新たに、橋梁の魅力を伝え、橋梁への関心と理解を深めていただくことを目的に「フォトアーカイブス」を整備し、当調査会で記録した橋梁約 300 橋について写真等を公開した。

2 その他事業

2－1 調査研究業務

(1) 橋梁の診断業務

国が管理する道路橋について、国土交通省の「道路橋定期点検要領（令和 6 年 3 月）」及び「橋梁定期点検要領（令和 6 年 7 月）」に基づき、現地にて状態の把握を行った上で、性能に関する技術的な評価及び措置の必要性の検討を行い、道路管理者が健全性の診断の区分を決定するための情報の記録を行った。

(2) 橋梁の補修・補強に関する業務

予防保全型の維持管理を目指したメンテナンスサイクルの高度化・効率化を図ることを目的に、中国地方整備局管内における国管理道路橋の過年度メンテナンスデータ（点検・診断・補修等）を整理し、架橋地点・橋種・部位毎の損傷傾向・進行状況の評価・分析を行った。

(3) 総合評価落札方式による工事発注のための技術支援業務

四国地方整備局において実施された総合評価落札方式による橋梁に関する工事発注手続きにおいて、技術提案書の分析・整理等を行った。

(4) 新技術の導入促進機関としての業務

令和 5 年度に、技術テーマ「橋梁の点検支援技術」と「道路構造物の計測・モニタリング技術」について導入促進機関として指定（令和 8 年 3 月 31 日まで）を受けている。

「橋梁の点検支援技術」については、当該分野に精通する専門家等からなる技術検討委員会を設置・運営し、その助言を得ながら点検支援技術の公募や実証試験等を行った。その上で、これら技術について点検支援技術性能カタログへの掲載に向けたとりまとめ等を行った。これにより、令和 7 年度末の性能カタログ掲載数は 220 技術（橋梁）となった。

「道路構造物の計測・モニタリング技術」については、地震発生時などに車両が通行できるか否かなどを把握する「モニタリング技術」の導入を促進するため【遠隔監視のためのモニタリング技術活用のガイドライン(素案)（橋梁編）】を作成した。

また、令和 7 年度に新たに、技術テーマ「橋梁等全国道路施設点検データベース活用促進環境整備」について導入促進機関として指定（令和 10 年 3 月 31 日まで）を受け、「全国道路施設点検データベース」を利活用する環境整備として必要な方策の検討等を行うため、データベース利活用ニーズ・シーズ調査及びユースケース仮説の整理を行った。

（５）新技術の導入促進に関する検討業務

新技術の導入が加速するよう、道路行政の技術開発ニーズの更新や点検支援技術性能カタログの改良、新技術利用ガイドライン（案）の改定について検討した。

（６）道路橋維持管理施策に関する業務

道路メンテナンス年報の作成に必要なデータとして、点検実施状況・点検結果、修繕等措置の実施状況及び措置が必要な橋梁の状況について整理した。

（７）道路橋データベースに関する業務

全国道路施設点検データベース（道路橋）について、既存データベースのデータテーブルの統合及びサーバ構成の見直し、これらに対応するためのデータ閲覧・取得用 API と登録用 API の改良を行った。また、他データベースとの連携を実施した。

（８）地方公共団体等の道路橋維持管理に関する支援業務

島根県及び京都府等が実施する橋梁の維持管理全般を支援するため、橋梁の点検・診断、補修・補強に関するアドバイス等を行った。

２－２ 道路橋データベースの管理運営

道路橋の諸元と点検結果に関するデータの閲覧・取得サービス、点検結果等登録サービスについて、通年でこれらの提供を行った。

有償データの閲覧・取得については、全国版で 105 ユーザ、地域版で 118 ユー

ザの利用があった。登録サービスについては、国が管理する道路橋の定期点検結果や第三者被害予防措置等について、のべ 548 ユーザの利用があり、16,457 橋分のデータが登録された。

また、取得したデータを BtoB 事業に活用できるように規程の改定を行った。

2-3 橋梁に関する人材育成支援業務

国土交通省及び地方公共団体の職員を対象とした橋梁の維持管理等に関する研修を支援した。具体的には、37 の研修等について、のべ 95 名の職員を派遣し約 760 名の研修を支援した。また、小学生を対象とする講習会等の支援も実施した。

2-4 出版

「道路橋の補修補強計算例Ⅱ」等の販売を行った。

3 会議の開催等

3-1 会議の開催

(1) 理事会

第 32 回理事会 令和 7 年 6 月 3 日 (Web 会議併用による決議)

決議事項：令和 6 年度事業報告(案)及び決算(案)について

令和 6 年度公益目的支出計画実施報告書(案)

第 14 回定時評議員会の招集について

報告事項：職務執行状況報告

第 33 回理事会 令和 7 年 6 月 25 日 (Web 会議併用による決議)

決議事項：理事長及び常務理事の選定について

顧問の委嘱について

第 34 回理事会 令和 7 年 8 月 29 日 (Web 会議併用による決議)

決議事項：第 15 回定時評議員会の招集について

第 35 回理事会 令和 7 年 10 月 1 日 (Web 会議併用による決議)

決議事項：理事長の選定について

第 36 回理事会 令和 8 年 3 月 26 日 (Web 会議併用による決議)

決議事項：令和 8 年度事業計画及び予算について

役員等賠償責任保険契約について

報告事項：職務執行状況報告

(2) 評議員会

第 14 回評議員会 令和 7 年 6 月 18 日

決議事項：令和 6 年度決算の承認について

評議員の選任について

理事及び監事の選任について

評議員、理事及び監事報酬規定の改正について

報告事項：令和 6 年度事業報告について

第 15 回評議員会 令和 7 年 9 月 25 日（Web 会議併用による決議）

決議事項：理事の選任について

3－2 職員の技術力向上

（1）会議等への参加

技術力向上のため、コンクリート構造物の補修補強に関するフォーラム 2025 や「構造性能評価のための鋼材腐食性状の診断・推定手法および構造解析」に関するシンポジウム等、講演会や技術会議に職員を参加させた。

また、新規採用職員を主な対象として、鋼橋・PC 橋製作工場や橋梁架設工事現場の見学を行うとともに、施工技術総合研究所や理化学研究所において実験装置や非破壊検査装置の施設見学を行った。

（2）資格取得

橋梁に関わる技術者として有用な資格等の取得を奨励した。

（3）CPD 取得

職員の技術力の維持向上のため、継続学習を支援し、CPD 取得を奨励した。

事業報告に係る附属明細書

1. 事業報告の内容を補足する重要な事項
該当する事項はありません。

令和 8 年 5 月

一般財団法人 橋梁調査会